

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 第54回新潟県公民館大会基調講演概要

4.5

- 3 **視点** 咲いた花 咲かせた土
- 3 **ひろば** テレビを見ていて
- 6 **実践記録シリーズ** 子どもと地域をむすぶ公民館
- 7 **サークル交流** コーロ・アヴァンティ（加茂市公民館）／神林グラウンドゴルフクラブ（神林村公民館）
- 7 **素顔拝見** 玉井康時さん（白根市）／風巻玲子さん（津南町）



伝統の技教室
～漆塗り～
加茂市

第44回関東甲信越静公民館 研究大会開催

地方分権の時代における公民館の経営

第44回関東甲信越静公民館研究大会は、去る8月28日(木)～29日(金)の二日間にわたり、埼玉県公民館連合会の主管の下、埼玉会館を主会場に開催された。

参加者総数千三百余名が一堂に会し、「地方分権の時代における公民館経営」をメインテーマに掲げ、15分科会に分かれ、終日熱心な研究討議が展開された。



シンポジウム

今大会は、行政全体における公民館の機能や位置づけを考える、という視点から協議がなされた。

本県担当分科会の特別部会「市町村合併と公民館」では、市町村合併の動向並びに市町村合併と公民館の役割や使命について、新潟市関屋地区公民館佐野昭昭館長が発表された。その概要は、新潟市及び周辺12市町村が目指す「田園



佐野館長の発表

型政令市」について、合併方針、取組み等、具体的な事例をとおしての分かり易い発表であった。

また、現下の急務の課題であるこの市町村合併問題については、関プロ大会参加者一

同の名の下、市町村合併と公民館についての緊急アピール案が全体会で提案され、満場一致で承認された。

翌日のシンポジウムでは、「最近の公民館を取り巻く状況とこれからの展望」と題して4人のパネリストから意見発表がなされた。

なお、平成15年度全国公民館・公民館優良職員並びに永年勤続職員の表彰で、二名の方が受賞された。(別掲)

また、現下の急務の課題であるこの市町村合併問題については、関プロ大会参加者一

第43回社会教育研究全国集会岡山大会開催される

くらしと地域を拓く力を創る社会教育

第43回社会教育研究全国集會は、8月23日(土)～25日(月)の三日間、今夏社会教育の元気な地、岡山市就実大学を主会場に開催された。

参加総数約600人余で「くらしと地域を拓く力を創る社会教育」をメインテーマに掲げ、第一日目は課題別学習会(6)、第二日目は分科会協議(22)で、終日熱心な討議がなされた。

本県からは、第1分科会「子どもの育ちとつながり―聞こえますか?すまじから―のつばやき」で、新潟市坂井輪地区公民館の高橋文子さんが、中高校生のフリースペース運営についての実践事例をとおして報告、問題提起された。

なお本県からは、今井会長はじめ11名の方が参加された。



開会セレモニー

平成15年度全国公民館

◆優良職員・永年勤続職員

表彰(本県関係者二名)

○優良職員表彰受賞者

・外ノ池 一様

(頸城村公民館長)

○永年勤続職員表彰

・八木 清宣様

(見附市中央公民館

事業係長)

視点

咲いた花 咲かせた土

長岡市教育センター
所長 高野孝雄



私はかつて派遣社会教育主事として公民館で勤務した貴重な経験がある。そのとき学んだ幾つかは、その後の私の生き方に大きな影響を与えた。

- ・ 明日も来たいという思いを
- ・ 同じ目線を大切に
- ・ 一粒の雫が大きなウエーブ

明日も来たいと思う魅力ある企画でないかと講座生は来ない。明日の子どもが保障されている学校教育との決定的な違いである。子どものために今何をすべきか、学校は子どものためにあるという教育の

原点を教えてもらった。同じ目線での話し合いでなければ理解されない。袖を着ながらの話し方、上意下達のような姿勢は受け入れられない。学校の敷居が高いとは何かというヒントをもらった。

一粒の雫が大きなウエーブを起こすように、小さな種が大きな花を咲かせ実をつける。日頃からの土づくり、仲間づくり、真剣に取り組んできたか。「咲いた花 咲かせた土」の意味を噛み締めている。学級づくり、学校づくりにも大いに参考にさせてもらった。

H O T N E W S

掲 示 板

平成15年度 中越地区公民館職員研修会 予告

1. 趣旨 (省略)
2. 主題 「住民と共に歩む公民館をめざして！」
3. 主催 中越地区公民館連絡協議会
4. 共催 新潟県公民館連合会
5. 主管 十日町市公民館、中魚沼郡・十日町市社会教育振興会、中越地区公民館連絡協議会主事部会
6. 期日 平成15年10月3日(金)
7. 会場 十日町市公民館
8. 日程

9:30	10:00	10:15	10:30	12:00	13:00	14:30	16:30	17:00	17:15	18:30
受付	開会式	オリエンテーション	講演	昼食	施設見学	分科会	閉会式	移動	情報交換会	

- 講演
演 題 「住民と共に歩む公民館をめざして」
——公民館の新しい役割と職員（せむし）の課題——
講 師 さいたま市立岸町公民館長 片野親義（かたの）様 (村上市出身)
- 分科会協議
- ・ 第1分科会「住民力を生かした公民館活動の在り方について」
 - ・ 第2分科会「学校週5日制対応事業の現状と今後について」
 - ・ 第3分科会「青年層の公民館事業への参加促進について」
 - ・ 第4分科会「(公民館の設置及び運営に関する基準)改正に伴う公民館活動の在り方について」
 - ・ 第5分科会「市町村長部局で所管している事業と公民館事業との連携について」(少子化・子育て支援や高齢者対策などについて)
9. 参加費 1,000円 (資料代)
10. 参加申し込み
十日町市公民館 (担当: 庭山)
〒948-0022 十日町市学校町1丁目
電話 0257-57-5011 Fax 0257-57-5010 (Fax E-mail可)
E-mail kouminkan@city.tokamachi.niigata.jp

ひろば

テレビを見ながら

小出町伊米ヶ崎公民館審議会委員 塩川 健一

先日久しぶりに家族と一緒に夕食をいただいていると、時計代わりにつけていたテレビのニュース番組で未成年犯罪の特集コーナーが放送されていました。

いつもの妻君の小言に適当に相槌を打ちながら見ていると、少年犯罪のひとつの原因には、子ども達が将来に夢を持っていないというものでした。出演した有名な解説者は、「特に父親が子どもに自分の夢を話さないのが問題」としていました。

す。これでは子どもに夢を持つてというのは無理な話です。私が子どもの頃はまだ高度成長期でした。少い少いでも何事においても向上きでしたので、将来への希望みたいなものはあったように思います。

その解説者によれば、子どもに語る父親の夢はどんな些細なことでも良いそうです。我が家の子ども達もそろそろ難しい年齢になりつつありますので、「夢」を語る準備をしているところです。



えることも大事なことだと思いますが、子どもたちの主体的に学ぶ学習者主体のプログラムというのを考えていかなければいけないのではないかと、教える人たちが主体で考えたカリキュラム、手法ではなくて学習者主体のカリキュラムで学習者主体の教育の手法が必要なんだと感じたものですから、その考え方や異質な人が一緒に集まって考える場、あるいは話し合う場を作っていくということによってやってきました。ここからいろいろな新しい動きが生まれました。

2. 事例豊栄市

その中でも豊栄市の公民館で佐藤館長と一緒にやらせていただいた教育コーディネーター養成講座、これは去年8月の3日間、私は5日やろうといったのですが5日は無理だということで最低でも3日間、プーイングがすごくあったということですけれども、3日間通してやることができました。そのプログラムが大会資料P14に、豊栄の教育コーディネーターの講座のプログラムが載っております。それをちょっと見ながら佐藤さんが、地域教育コーディネーターをやろうとされたきっかけや、なぜやろうと思われたのか、それとやってみてどうだったか、あるいはプロセスでどんなことを感じて、やってみてどうだったか等を、5分ぐらいで話してもらおうとありますが。

佐藤館長：座ったままでお話させてもらいたいと思います。先程清水先生がずっとお話されてきていましたが、よく地域と学校と行政と一緒に子どもたちを育もうということとはよく言われているわけですがすけれども、実は一体どんな形で具体的に進めていくんだと、フレーズはともいいが具体的にどんな形で進めるのか、もっと言えばその地域のなかに先程言っていたような子どもたち、困った状態の人たちを目の前にして、私ども公民館はどんなふうを考えていったらいいんだろうか、ということでありました。

一昨年に清水先生にお会いして、その話をしていたのですけれども、地域教育コーディネーターという言葉は実は私は知りませんでした。一緒にやる時に本当の意味で子どもたち、学校と深く関係しながら、あるいは深く地域と関係しながらどうやっていったらいいんだろうか。そのような発想から地域教育コーディネーター養成講座を立ち上げたわけです。そして、その中で学校の先生方、地域の人、行政の人、この三者が受講生として必ず入れる。それが、3日間缶詰ですから、なかなか思うように人が集まりませんでした。そういう過程があったが、学校にかなりプー一言われながら、行政の職員にも理由をお話して協力を求めて参加してもらったのですけれども、それもなかなか思うようにいかないところもありました。日程に土日は入っていませんでした。地域の方も仕事を持っているわけですから3日間缶詰になる、本当は5日間ほしかったところですが、そんな理由から3日間というように形にさせてもらったところでした。

問題は清水先生がおっしゃったような現実があって、子どもたちの今抱えている状況があって、そのことを現状把握しながら、しなければ課題が出てこないわけですから、どういった課題があるんだろう、この現状把握をするということとはとても大事なことだと思ったところでして、清水先生がその辺のところをとてもうまく内容を組み立ててくれまして、コースに分けて実際入って町の状況や学校の状況やいろいろな状況、いくつかのグループ、班に分かれました現状を把握する。具体的にこんな課題があって、この課題を解決するためにはどんなふうなことをしていったらいいんだろうか、そこで初めて未来ビジョン・未来デザインが描けるわけですがすけれども、こんな形で町を作りたいとか、こんな形で子どもたちのある地域を変えていきたい。もっと言えば人を変えるという作業で具体的にテーマを見つけながら、具体的なメニュー作りをしていく作業がとても大事だということに思っていました。そういうことを具体的に一つ一つやってくる中で、参加者20数名、30名近くだったと思いますけれども、本当にやる度毎にどんどんわかってきて、しかも、現実のところ目線がなくて地域課題を見つけ出すという作業を共にやっているわけで、だんだん参加している人たちも打ちとけあって、今度何か本当に具体的なことがあったら一緒にやっていく、そんな形で、この講座を無事終わることができました。

今どんなふうになっているかということ、その時は本当に

仲良しグループですか、参加した30名の方々が新たに何かをする時に、人のネットワークとしてそのまま生かしていく、という形で終わらせてもらった経緯がありました。

それでは今何をしているかということ、実は一歩進んで、学校の話がよく出てきていて、学校は大変なんだと話をしますけれども、本当に学校が何が大変なのか、実は私たちはわかっていないのです。地域が具体的に何が大変なのか、ということが良くわかっていないところがあります。この研修会をさせてもらって、今度は学校の教頭先生をお呼びして実際に何において困っているのか、そのことを具体的に挙げてもらい、それを私たち公民館や地域の方々が一緒になって解決できるともいいテーマ、素材になるはずだから、とお願いして実際にさせてもらいました。ここまで持っていくためには、またそれなりのハードルやら抵抗がありましたけれども、これをきっかけにして実質的に現場を見ながら、先程清水先生がおっしゃったように「ああ大変だなあ」ということではなくて、実際悲鳴をあげている子どもたちがいるわけですから、それを使わずして何の地域人かと思えますので、今その作業をさせてもらっているところです。

清水：有難うございます。急にお話したのに申し訳ありません。

本当に子どもたちの声なき声といいますか、声なき悲鳴をあげていると今佐藤さんがいわれたそのとおり、その声なき声を聞いていくことが地域の人間の役割なのだろうと思います。

豊栄で今お話されたフィールドワークをやったのです。学校の先生、公民館の方、まちづくりの人、PTAの人たち、子ども会の人がありました。そういう人たちが4つのグループに分かれたのです。一つのグループは農業の現場に行きました。ここに宮尾さんといって有機農業をやっている、地域通貨もやっていて、都市交流もやっている若い方たちも行きました。すると、夫婦で話を聞かせてくれたけれども、農業の方のグループに農業ほどこいい仕事ないよ、家族で助け合って仕事できて、そしてみんなに食べたいという命につながる役立つ仕事できて、そして自分なりに工夫してやれるこんないい仕事はない、と目を輝かせて話す訳です。すると、私たちは農業の未来というのは暗く考えていますが、地域にこんなに明るく元気にそして未来につながるような農業をしている人がいるんだ、ということを発見するわけです。あるいは商店街に行った人たちもいます。豊栄の商店街も駅前なんか非常に空洞化が進んでいますが、その中で空き店舗を利用していろんなことをやったり、花いっぱい運動をやったりして、その商店街の人の話を聞くと、こんなに自分の店のことも大変なのに、地域のことをこんなに一生懸命やっている人がいたんだということに気が付いていくわけです。帰ってきた人たちはみんな目を輝かせて帰ってくるのです。地域の人たちが一生懸命やっている人たちの話を聞き、現場で取材をして帰ってきて、総合学習のカリキュラムと一緒に組んだのです。宮尾さんたちの農業のフィールドで子どもたちはどんな学びができるだろうか、というのを学校の先生、公民館の方、子ども会の方、まちづくりの人たちが一緒になってすごく面白かったです。

私が印象深かったのは、学校の先生が「カリキュラムなんて一人で作るものだと思っていたのに、大勢で作れるものですね。」あるいは、「学校の先生以外の人が入ってもカリキュラムというのは作れるものですね。」といわれたことが印象深かったです。先生もみんなで作ればいいんだということに気づいて、顔が変わっていく、明るくなっていくのです。そういう意味でとても私にとって印象深かった。あるいはそのフィールドワークの前にコミュニケーション技術の検証をすると、いまコミュニケーションが大事だと言われてはいますが、コミュニケーションを実際に体得し、体で味わうためには、私が重要視しているのはインタビューゲーム、交互に20分ずつインタビューをしあうゲームをするんです。これをやるとコミュニケーションということが体でわかってくる。普段20分も人の話を聞いたことがない、聞かれたことがない。そのことによってはじめてあった人でも随分深いコミュニケーションができる。

○コミュニケーションゲーム省略

※詳細は後日の報告書で

次号へつづく

第54回新潟県公民館大会

基調講演の概要 その1

特集

「地域の教育力を高める」

新潟仕掛人会議 代表運営委員 清水 義晴

1. はじめに

おはようございます。

それでは私の持ち時間を、お話をさせて頂きたいと思えます。今日ここへは車で来たのですが、その間にラジオを聴いていたら、少年の最近起こった渋谷での事件、あるいは長崎県の事件がどの番組でも取り上げていました。大変な時代になったという論調で取り上げられていた訳ですが、私自身、確か平成7年だったと思いますが、上越市でいじめで自殺をした子どもが出た時に大変ショックを受けました。その前年に愛知でいじめで自殺の子どもが出た時は、まだ私にとっては他人事で、今日のラジオと同じように「大変な事態になったな」「いじめで子どもが自殺をするなんてひどい時代になった」と思いました。ところが、翌年に上越でいじめで自殺の子が出た時には、「これは他人事ではないな」「これは人ごとではない自分の問題だ」「学校だけの問題でなく、これは一人一人の問題あるいは社会の問題」そして「学校教育に携わっていると、子どもが学校でいじめにあっていているということではなく、一人一人の生き方の問題なんだ」ということを強く感じました。その時から何とか学校問題に関わろうと、学校教育に関心を持って何らかの関わりをもって行こうと決心しました。私はそうして、学校教育や社会教育に関わらせてもらうようになりました。

それと共に、1990年から13年くらいになりますが、北海道の浦川町という日高地方の中心になる1万5千人くらいの町がありますが、その精神障害者の施設「デベルの家」に関わっています。この精神障害をもった人たちが、病を持っているにもかかわらず、病気のままで幸せになろう、明るく生きよう、そして、「弱さ」こそが人間と人間をつないでいく絆なんだ、あるいは自分たちが今まで精神という「病に悩んできた力」、あるいは自分自身が「病を受け入れる力」を、人と人をつなぐ力に変えて明るく生きていこうということ、今まで私たちが思っている精神障害や病を越えて、新しい価値観で共同体を作り始めていたことに出会って、いろいろなことを教えてもらいました。

今は大変な「心の危機の時代」だと思います。以前なら、事件や災害があった時に、それを受け止めるだけの人と人



基調講演

とのつながり、地域のつながり、自然とのつながりがありましたが、それを受け止めるだけのつながりが切れてしまった。そういう意味で心の危機の時代であり、共同体や共同性の危機ということに気づかされてました。そして、新しい共同体・共同性、新しい人と人のつながり、地域とのつながりを作っていくことが、いかに大事なことなのか気づかされていったわけです。

日本は和の文化と言われます。いま和というと自分を殺して集団に仕えると言うあまりいい意味合いがもたれていません。しかし、本来の和というものは、自然の姿のように、一人一人が生き生きと生きながら連帯している。命というものを考えてみると、命の性格は自発性と連帯性だということです。NPO活動をいろいろやっていく中で、自分らしく生きたいという願いがあります。NPO活動をしている人たちは、自分の夢をかなえたいとか自分らしく生きたいと言う強い思いがあります。もう一つは困っている人を放って置けない、あるいは今の社会問題を放って置けない、自分の問題として考えていこう思いがあります。例えば、長岡の地域循環ネットをやっている金子さんは、今、地球問題のこれは放つとけないんだ、あるいは「地域の茶の間」を広げていた河田さんは、寂しい人は放っておけない。そういうつながりを求める気持ち、自発性と連帯性が命の一つの性格なのではなからうかと思えますし、命のつながりを回復していく中に真の問題解決があるのではないかということ、まちづくりの中で感じています。

○「うちの実家」「地域の茶の間」省略

※詳細は後日の報告書で

○便利屋さん省略

※詳細は後日の報告書で

今日名簿を見させていただいたら、私が一緒に教育コーディネーターの活動をさせていただいた方が来ておられるので、私が一方的に話すだけではなく、その方達にお手伝いをしていただいてお話を進めていければありがたいなと思っていますので、豊栄市中央公民館長の佐藤さん、加治川村生涯学習課の吉田さん、ちゃんと席二つ用意しておきましたので、そこへお座りください。

私はこの豊栄と加治川の例は、私の中でとても記念になり印象に残ったことであり、私自身が学ばせていただいたことなので、お二方からも話していただけるとその現場の具体的な話ができると思います。

まず、先程お話ししました犯人探しをするより関係性が大事なんだということについてです。まちづくりで誰か犯人を仕立て悪者にするというよりは、複合的な関係性の中で問題が起こっているから、環境を良くしていけば必ずから問題解決につながる。そのためには学校批判をしたり、家庭を批判したり、子どもを批判したりするのではなく、みんなが一緒になって考えたり、みんなが話し合いの場を作ればいいじゃないか、その場作りが大事なんだと思いつているのです。新潟県の生涯学習センターさんと一緒になって、何年か続けさせていただいているのですが、大体の生涯学習センターの所長さんや担当の方がすごく理解のある方で、一緒に話し合っているうちにやろうということ、この教育コーディネーター養成講座というのが進められて、今年3回目ですが、その学校の先生と今日お集まりの社会教育の方、それからPTAの人、まちづくりをやっている民間の人が一緒になって学ぶ。その学び方も一方的に講義するようなやり方ではなく、みんなが共に学ぶ、ワークショップで、みんなが主体的に参加し、みんなが共有体験をしながら、集団で考えたり、アイデアを出しあったりしている手法で。

今までの学校教育のような一方的に先生が教え込む、教

実践記録

66 シリーズ

第54回新潟県公民館大会 実践事例発表3から 子どもと地域をむすぶ公民館

糸魚川市糸魚川公民館 副主事 山本明美

1 はじめに

地域や家庭の教育力の低下が指摘されるようになって久しいですが子どもを静かに見守り、はぐくむことのできる風土、子どもがさまざまなことを体感・体験できる土壌がその教育力の要素でないかと思えます。ここに発表する実践例はなにも目新しいことでなく、以前は自然な形の中で子どもをはぐくんできたものではないかと思っています。

公民館の事業としてより、地域で繰り広げようとするものを公民館がちょっと支援できて、一緒に達成感を感じさせてもらったといった方がよいのかもしれない。

2 Iプランの策定と青少年事業の見直し

糸魚川市は国の「教育改革」の取り組みに先駆け、新たな教育施策の方向を踏まえ、子どもたちの自立を促し、個性を伸ばし、社会性をはぐくむといった願いのもと、「子どもの未来をひらくI(アイ)プラン」を平成13年11月に策定しました。

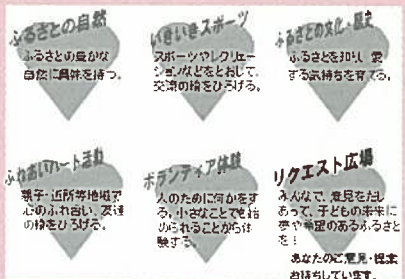
- I 子どもの夢と希望をはぐくむ学校づくり
- II にははぐくみ、ともに学ぶ家庭・地域づくり
- III ともに支えるネットワークづくり

の3つの柱から構成されています。(ちなみに、Iプランの「I」とは、①子どもの「生きる力」②ふるさと「いといがわ」③子どもへの「愛」にかけてネーミングしております。)

それを受けて、糸魚川公民館として「Iプラン」をどのように理解し、取り組むか。また、青少年活動・事業の実施に向けてどのような展開ができるか検討しました。

まず、これまで実施してきた事業の見直し作業をしました。公民館の青少年事業と事務局をしている青少年健全育成協議会の事業を予算とともに一本化し、「Iプラン事業」と位置づけました。

つぎに、公民館の青少年部・育成指導員・体育指導委員・青少年健全育成協議会・小中学校等に呼びかけ、新たに「Iプラン検討委員会」を立ち上げ「Iプラン事業」の主旨と公民館が取り組む内容を示し、検討していただきました。(H15.2.19Iプラン反省会も開催済)



また、毎月10日に発行している地区内全戸配布の「糸魚川公民館だより」に掲載しました。6つのジャンルに分けた事業内容の最後に「リクエスト広場」と称して地区民の中での要望・提案を待ち受けたところ、囲碁教室と絵本読み聞かせ教室が手を挙げてきたのです。

3 囲碁教室について

※大会資料P.26参照。

4 絵本読み聞かせ教室「はらべこあおむし」について

活動日：毎月第1木曜日 10：00～11：30

会場：糸魚川公民館 和室

対象：0歳～3歳の乳幼児とその保護者

その他：指人形鑑賞・クリスマス会

事業主体：絵本読み聞かせの会：はらべこあおむし

※会の名称「はらべこあおむし」はエリック・カールの同名の絵本から名づけています。

やがて、大きく美しい蝶となって飛び立つことに願いを込めております。

この事業の取り組みについての企画書は下記のとおりです。

平成14年度Iプラン事業の取り組みについて

事業名 絵本読み聞かせの会

対象者 0歳から3歳までの乳幼児とその親及び妊産婦

- ねらい
- ・絵本の読み聞かせを通して、親と子のつながりを深める。
 - ・親同士のつながりを持ち、絵本を通して子育ての幅をひろげる。
 - ・親と子どもの心を豊かにする。

事業内容

日時	原則として毎月第1木曜日(初回：5月9日) 10：00～11：30
会場	糸魚川公民館 和室
主催	糸魚川公民館 担当：山本 会代表：朝日仁美 (上対2-6-1)
内容	絵本の読み聞かせ
周知	・糸魚川公民館だより掲載済 ・ポスター掲載済 (市内小児病院・保健センター・まがたま・アクアホール・図書館・保育園・支館等) ・チラシ作成し、育児サークル等へ送付
運営	①会員の自主運営とする。スムーズな運営が出来るまで糸魚川公民館が支援する。 ②市民図書館から20冊の絵本を団体登録カード貸出する。本の選定については、そのつど、会員がある。 ※団体登録済(登録名：はらべこあむし) ③活動日に使用した本は、糸魚川公民館のポストで返却する。 ④予算の必要が生じたときは糸魚川公民館に相談する。
予算	①糸魚川市平成14年度公民館子ども活動事業の委託金 30,000円 ②糸魚川公民館予算事業費 青少年活動費 (Iプラン乳幼児対象) 20,000円 但し、糸魚川公民館予算については、市委託金が不足したときのみ執行する。
その他	糸魚川公民館和室を乳幼児に安全な環境に設定する。

なお、この事業はIプランのリクエスト事業として実施する。また、市民図書館の特設の支援による。

福祉や保健の分野でも子育て支援事業としても、絵本の読み聞かせはちょっとしたブームで全国的に繰り広げられております。

この会は、2歳児を持つ母親からの要望でした。市民図書館でも読み聞かせは既に開催しているのですが、対象年齢が高く、乳幼児対象のものを立ち上げたいとのことでした。

彼女は、横浜から嫁ぎ、いわゆる「よそ者」として糸魚川の風土については少々懐疑的でした。そんな「よそ者」が会を立ち上げることが

できるか強い不安を持っていました。

- ①無理をしないこと、立ちいかななくなったらいつかを閉じてよい。
- ②一人でがんばり過ぎないこと。
- ③会の趣旨に賛同し協力できる仲間・スタッフになってくれる人を探す。

などアドバイスし、とにかくやってみよう、うまくいかなかったその時に考えようということで、平成14年5月9日スタートしました。初回は20数組47名の親子が参加し、少ないときでも12・3組20数名が参加しております。

先に開催している青海町の「アイアイ」のスタッフの支援もあり、また、参加者の中で企画・運営に参画してくれる方も数名確保でき、さっそくスタッフ会議を開き今後の活動計画等話し合われました。

スタッフ自身が会の立ち上げ・運営等について、経験したことがないので、そのノウハウや予算などについて随時相談を受けたり、あるいは個人的に子育てや家族等の相談を受ける場合もあります。

現在は月に1回の会報を出し、子育て支援センターや家庭相談員等の支援もありコンスタントに活動できております。



クリスマス会
はじめてみるサンタさんに泣き出す子続出！
サンタさんも汗びしょり！
プレゼントはもちろん絵本です。
記念写真をハガキに宛て、クリスマスカードで参加者に送付しました。大好評でした。

5 事業の評価反省と今後の課題

この事業をとおして地域の中の異世代、特に若い世代の母親たちとの交流は公民館にとっても大きなインパクトを与えました。館に響く幼児の騒ぎ声・泣き声さえ新鮮で、利用者との交わす会話にも和やかな雰囲気があった公民館が活性化したような感がありました。また、全戸配布の「糸魚川公民館だより」に事業の状況を掲載し紙面をうるおしておりました。

なによりもよかったと評価したことは、会の自主運営がしっかりと行われ、適時に公民館のサポートも生かされてきたことです。

また、青少年健全育成協議会との事業と公民館の青少年事業を一本化することにより、過去に実施して労多くして成果のあまり上がらなかった事業、それも踏襲継続されてきた事業の思い切った廃止や現在の地域環境にあった新規の事業の立ち上げ作業がやりやすくなったこともよかった点です。

Iプランが学校や地域またその支援のネットワークの中でよりよい子どものはぐくみができるよう地域と子どもをむすぶ役割の大切さを、公民館を支える各支館・事業推進員等により一層周知することも今後の課題の一つです。

この子どもと地域を考えるとき、公民館が今ではあまり開かれなくなった、ややもすると忘れ去られていた感のある「社会教育の現場」であると再認識せざるを得ませんでした。

広く地域を見、人を知り、自然資源の活用ばかりでなく、地域に住んでいる人的資源の活用をいかに発掘し、地域の活動に結び付けていくか、また、「子どもと地域をむすぶ公民館」としての役割と公民館自身が地域の有効な資源として存在できたらと考えております。

美しい心のハーモニー
づくりをめざって

コーロ・アヴァンティ

加茂市を中心に活動している
女声コーラスグループです。

週一回、美しい自然に囲まれ
た公民館で歌っています。家
事をやり繰りして集まり、一
日精一杯歌い合わせて、気持
ちよくハーモニーした時の喜
びは格別で、身も心も爽やかな
幸せなひとときです。時にお
しゃべりに花を咲かせ、和や
かな心のハーモニーづくりも
大切にしています。家族から
も「いつまでも若々しい笑顔



のお母さん」を応援してもら
えるようにと願いながら……。

近年、福祉施設の訪問や学
校の文化祭、イベントの招待
演奏等、徐々に活動の場を広
げています。

来る11月16日(日)りゅー
とぴあコンサートホールで演
奏会を開催します。どうぞお
出かけ下さい。

加茂市コーロ・アヴァンティ
代表 金子 祐子 記



仲の良さが自慢です

神林グラウンドゴルフクラブ

村の生涯スポーツ事業「こ
とぶき健康教室」からグラウ
ンドゴルフが大好きな人達が
集まって結成し、今年で5年
目になります。



現在会員数は30名、週二回
総合運動公園(バルパーク)
で練習を重ね、県内各地の大
会に出場しています。

クラブのモットーは、「み
んな仲良く、楽しく健康づく
り」です。あまり勝負にこだ
わり過ぎることなく、和気あ
いあいとプレーを楽しんでい
ます。

年に一度、総会を兼ねて近
くの温泉に行くのが楽しみで
す。

神林グラウンド
ゴルフクラブ
石田 久平 記

文化センターの図書室で毎日、明るい笑顔とやさ
しい対応で子どもたちに人気があって、読書普及に
情熱を燃やしている女性が「玲子さん」です。

第一印象はおしとやかな彼女ですが、図書室業務
と読書普及に関してはおしとやかではられないと
ばかりに日夜奮闘を続けています。

さて、当図書室は33,000冊
の蔵書数ですが、貸出しが「0」



津南町教育委員会生涯学習課
主事 風巻玲子さん

という本がなくなる日を思いながら広報活動をがんば
っている「玲子さん」でもあります。

読み聞かせの会「おはなしおかあさん」の事務局
として夜の会議も積極的にこなし、少しでも多くの
子どもたちから読書好きになってもらいたいという
思いがいっぱいです。(本人いわく「お酒は呑めま
せん」ですが真実はどうでしょうか? 秘密)

(津南町教育委員会生涯学習課長 大口定一郎 記)

玉井康時さんは、今年4月に保健福祉課から公民
館へ異動した「びかびかの1年生」。

初めて経験する地区公民館事業も、淡々とやり遂
げて行く姿は、若手職員の多い公民館にあって、と
ても頼もしい存在です。

そんな玉井さんの特筆すべき長所は、とても温厚
な人柄でしょう。

お酒は強い方だと思いますが?



白根市中央公民館
主事 玉井康時さん

いつも宴会では顔を赤くしています。一緒に飲んだ
時のこと、何気ない談笑でしたが、玉井さんの温か
い人柄を感じとることができました。

日頃のストレスを昼寝で発散し、ますます地域に
溶け込んだ公民館職員として手腕を発揮してもらい
たいと思います。

時には、公私に渡りご指導もお願いします。

(白根市中央公民館 菊池 利徳 記)



「まなび屋」報告第2集がより一層充実した計画の下、豊かな実践内容を掲載して、恵送されて参りました。報告の紹介が少し遅れましたが、掲載内容は、I 概要、II 活動内容、III 挑戦と大きく3分類し、その中で細項目を設定してレポートをまとめています。とくに今回は、挑戦という前向きな視点を設定し、より積極的に子どもたちの活動や事業に



取り組んでいる姿があることで、さすが、若さと感動的な出会いがエネルギーギッシユな行動を呼んでいるのかも知れません。子どもたちと向きあいながら、自らの成長にもプラスになると

資料紹介

まなび屋 報告第2集

新潟大学教育人間科学部学習社会ネットワーク 新潟市西地区公民館

という相乗効果のなせる技かもしれません。昨年、西地区公民館関係者との歓談の折、自分たちの仕事、成果を評価してもらええる客観的な資料掲載があれば、なおよろしいですね、と話した覚えがあります。早速今回めぐってみると、報道記事一覧がありました。朝日、産経、日報から「月刊マナビ」「月刊公民館」「新大広報誌」等々です。

Network ネットワーク

平成15年度下越地区公民館関係役員等研修会案内

1. 研修テーマ 地域づくりと公民館 (開催趣旨 省略)
2. 主催 下越地区公民館連絡協議会
3. 共催 新潟県教育委員会・新潟県公民館連合会
西蒲原郡教育委員会連合会・燕市教育委員会
4. 主管 西蒲燕公民館等連絡協議会
5. 期日 平成15年10月2日(木) 3日(金)
6. 会場 弥彦温泉 四季の宿 ホテル『みのや』
7. 対象 公民館長・副館長・課長・課長補佐
職員及び公民館運営審議会委員等
8. 日程

	11:30	13:00	13:30	16:00	17:00	18:00
○第1日目 10月2日(木)	受付	開会式	分科会	分科会 報告 講評	休憩	情報交換会
	9:30	10:00	11:30	11:45		
○第2日目 10月3日(金)	公演	講演会	閉会式			

9. 分科会
 - ◎第1分科会 テーマ 『地域文化の継承と公民館』
 - ◎第2分科会 テーマ 『地域リーダーの育成と公民館』
 - ◎第3分科会 テーマ 『学校と地域を結ぶ公民館』
 - ◎第4分科会 公民館初任者研修会
10. 分科会講評 下越教育事務所社会教育課長
11. 記念公演 弥彦村『矢作里神楽保存会』 弥彦村無形民俗文化財
12. 記念講演会 演題 『地域づくりはあるもの探しから』
講師 新潟県地域づくりアドバイザー 大滝 聡 様
13. 問合せ 西川町公民館 電話0256-88-2334

event information

平成15年度

高齢者を交通事故から守る県民運動

平成15年
高齢者を交通事故から守る県民運動
ひるげよう 長寿社会へ 無事故の輪
9月1日～12月31日

秋の全国交通安全運動
夕暮れの 道路を照らす マナーヒライト
9月21日～9月30日
新潟県民運動推進委員会

早めのライト・オン

平成15年 秋の全国交通安全運動
実施期間 9月21日(日)～9月30日(火)
目的 この運動は、県民一人ひとりに交通安全知識を普及し、交通安全思想の高揚を図るとともに、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣づけることにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

運動の重点
※ 高齢者の交通事故防止、特に薄暮時における歩行中の事故防止
※ シートベルトとチャイルドシートの着用徹底

運動の進め方
県、市町村及び関係機関、団体は、この実施要綱に基づき、相互に連絡を密にしてそれぞれの実情に即した具体的な実施計画を策定するとともに、積極的な広報活動などを通じて、すべての県民に周知を図ることにより、この運動への参加意欲を高め、幅広い県民運動として展開する。

高齢者の交通事故防止、特に薄暮時における歩行中の事故防止
シートベルトとチャイルドシートの着用徹底

第44回関フ口大会には、昨年の新潟大会の返礼を兼ね、県内各市町村公民館から67名もの多数の方々からご参加いただきました。財政厳しい折にもかかわらず、

あ と が き

らず全面的なご支援いただきましたこと、心からお礼申し上げます。市町村合併問題も、いよいよ本格的な始動となりました。県公連でも、諸情報の収集に努めております。

(鈴木 記)

表紙解説 伝統の技教室～漆塗り～ 伝統産業を支えてきた職人から指導いただき、作品作りにチャレンジ。かぶれましたが、最後までやりとげました。